



● 草の根パートナー型

平成21年度第一次補正予算による草の根技術協力事業 緊急経済危機対応-包括型採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 国名	フィリピン
2. 事業名	パーマカルチャー開発モデルによるアムナイ川流域先住民族マンニャンの食の安定供給
3. 事業の背景と必要性	ミンドロ島に住むマンニャン族は、戦後他地域からの移住者の激増や不法伐採をはじめとする自然環境の激変の中、近年特に民族存亡の危機を体験している。狩猟採取を生業にしている半遊牧民である彼等にとって自然環境の破壊は飢えと文化の破壊に他ならないからである。また、地理的要因やさまざまな偏見から教育を受ける機会を得られず識字率はゼロに近く、そのことが原因で農業をはじめとする新しい技術の移植の機会も奪われている。まず何よりも識字教育をはじめとした基礎教育の普及を土台としながらも、彼等の文化や生活スタイルにあった新しい食料生産の方法の導入とその普及が必要である。パーマカルチャーは“先住民の文化、人、自然環境への配慮”をその倫理にしており、少ない資本で最大の効果を得る合理性を有していることからマンニャン族の飢えの解決、また地域開発の土台づくりに最適の方法論である。
4. 事業の目的	先住民文化を配慮し、また先住民の知識を十分盛り込んだパーマカルチャー・デザインによる土地利用計画の作成と食料の安定供給
5. 対象地域	西ミンドロ州サンタクルス町ピナグトゥリラン地区アムナイ川流域
6. 受益者層	アムナイ川流域にあるマンニャン族集落計6村の住民約200世帯 21世紀協会マンニャン族ボランティアスタッフ計20名
7. 活動及び期待される成果	マンニャン集落のパーマカルチャー・デザイン 実験農場の運営 パーマカルチャー・プロモーターの育成 マンニャン集落での食料増産
8. 実施期間	2009年11月～2012年3月（2年5ヶ月）
9. 事業費	25,490千円（予定）
10. 事業の実施体制	21世紀協会ミンドロ事務所が日本本部にいる調整員と緊密な連絡をとりながら事業の運営を行う。事業の要となるのは派遣される2名の日本人専門家及び協会のマンニャン族ボランティアスタッフ計20名である。ボランティアスタッフは日本人専門家の訓練によりパーマカルチャー・プロモーターとして機能し、マンニャン集落における住民への指導をより効果的なものにする。
II. 実施団体の概要	
1. 団体名	特定非営利活動法人 21世紀協会
2. 活動内容	フィリピンミンドロ島に住む先住民族マンニャンを対象にした教育支援及びその周辺環境整備活動
3. 対象国との関係、協力実績	<ul style="list-style-type: none"> ● 2005年～2008年JICA草の根技術協力（支援型）「アムナイ川流域識字教育推進事業」 ● 2008年～2011年JICA草の根技術協力（パートナー型）「アムナイ川流域少数民族保健支援システムの構築」